

第5学年社会科学学習指導案

日 時 令和6年11月20日(水)

第5校時 13:10～13:55

対 象 第5学年3組24名

授業者 関 笙華

会 場 5年3組教室

1 単元名 「わたしたちの生活と工業生産」(東京書籍)(全21時間)

小単元名「これからの工業生産とわたしたち」(全4時間 本時は2/4)

2 単元の目標

我が国の工業生産について、伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して各種の資料で調べ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追及・解決しようとする態度や、学習したことをもとにこれからの工業の発展について考えようとする態度を養う。

3 題材の評価規準

知識・技能	①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などについて各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の課題を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、燃料や原材料の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解している。
思考・判断・表現	①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術に着目して、問いを見だし、技術を生かして発展する工業生産の課題について考え表現することができる。 ②工業生産について学習してきたことを総合して工業生産の課題について考え、学習したことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、これからの工業の発展について考え表現していく。
主体的に学習に取り組む態度	①これからの工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習課題を追及し、解決しようとしている。 ②学習したことをもとに、これからの工業の発展について考えようとしている。

4 指導観

(1) 題材観

関連する学習指導要領における領域別目標は以下の通りである。

(3)

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。

(エ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などに着目して、工業生産の概要を捉え、工業生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

本小単元では、主に日本の工業生産が国民生活に果たす役割について学習する。教材として提示している工業生産の諸課題、伝統を生かした工業、中小工場の技術などをもとに、これからの日本の工業生産の発展に迫れるようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、新たな社会的事象について学ぶことに興味をもっている児童が多いが、その一方で社会科に対して苦手意識をもち、学習に消極的な姿勢の児童もいる。一人ひとりが自分に適したペースや方法で学習を進めたところ、少しずつ発言が増え、活発に交流する姿が増えた。しかし、自由な交流を行うと、一定の仲良しグループの交流で終わってしまうことも多い。そのため、事前に興味・関心のある学習課題（「伝統」「高い技術」「新しい技術」）を選ぶアンケートを行い、教師による意図的なグルーピングを行う。

これまでセルフ学習で、「低い土地の暮らし」「あたたかい土地の暮らし」などの学習に取り組んできた。これまでの学習では、タブレットで意欲的に調べ学習を行うものの、インターネットからの情報をあまり精査せずに閲覧し、本来調べるはずの内容から逸脱してノートを書いてしまう児童が複数確認できた。そのような児童には、教科書等の文章資料を読んで、適切な情報を見付ける力を育成するとともに、資料からどのようなことが分かるのかを考えることや複数の資料を結び付けて考える力を身に付けさせるように指導をしている。

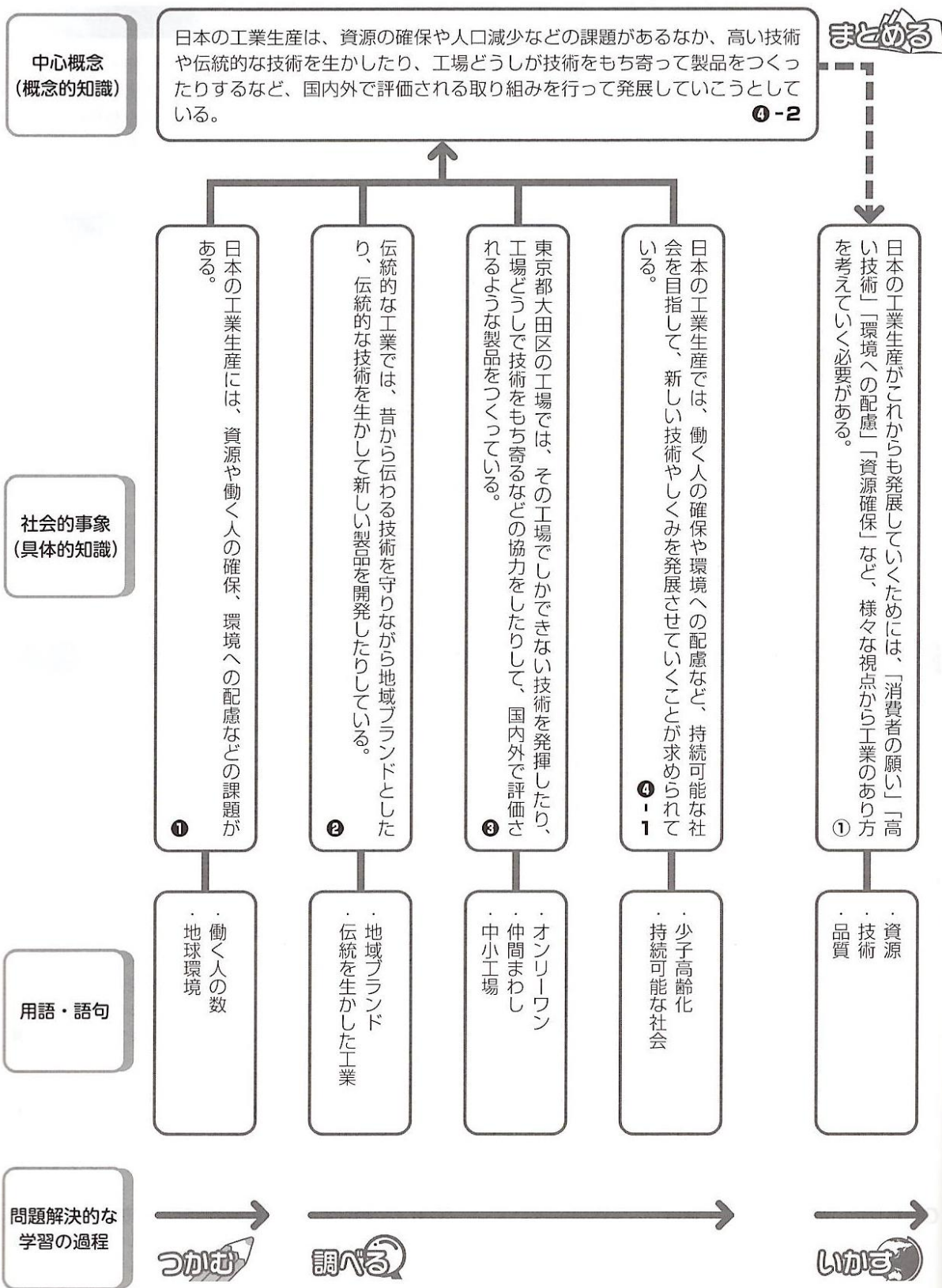
社会科の学習だけではなく他教科に及んで、発言したり発表したりする児童は限られている。人前で間違えることに恐怖を感じる児童が多く、全体の4分の1にあたる児童は一人で発表することに、かなり消極的な様子である。第4時では、自分が学習したことを別グループに発表する活動を行うが、二人一組のペアにし、少人数の場で発表をする経験を積ませ、自信を付けさせていきたい。

(3) 教材観

これまでの工業単元の学習では、主に大工場に焦点をあてて学習を行ってきた。本単元では、日本の工業生産額の約半分、労働人口では約7割を占める中小工場の現状について学習する。取り上げる事例は、伝統を生かした工業として北陸地方の工業生産と、「ものづくりのまち」として知られる東京都大田区の工業生産である。まとめでは、これまで工業単元で学んできたことを生かして、日本の工業全体を見据えた工業生産の課題やそれに向けた取り組みについて学習していく。

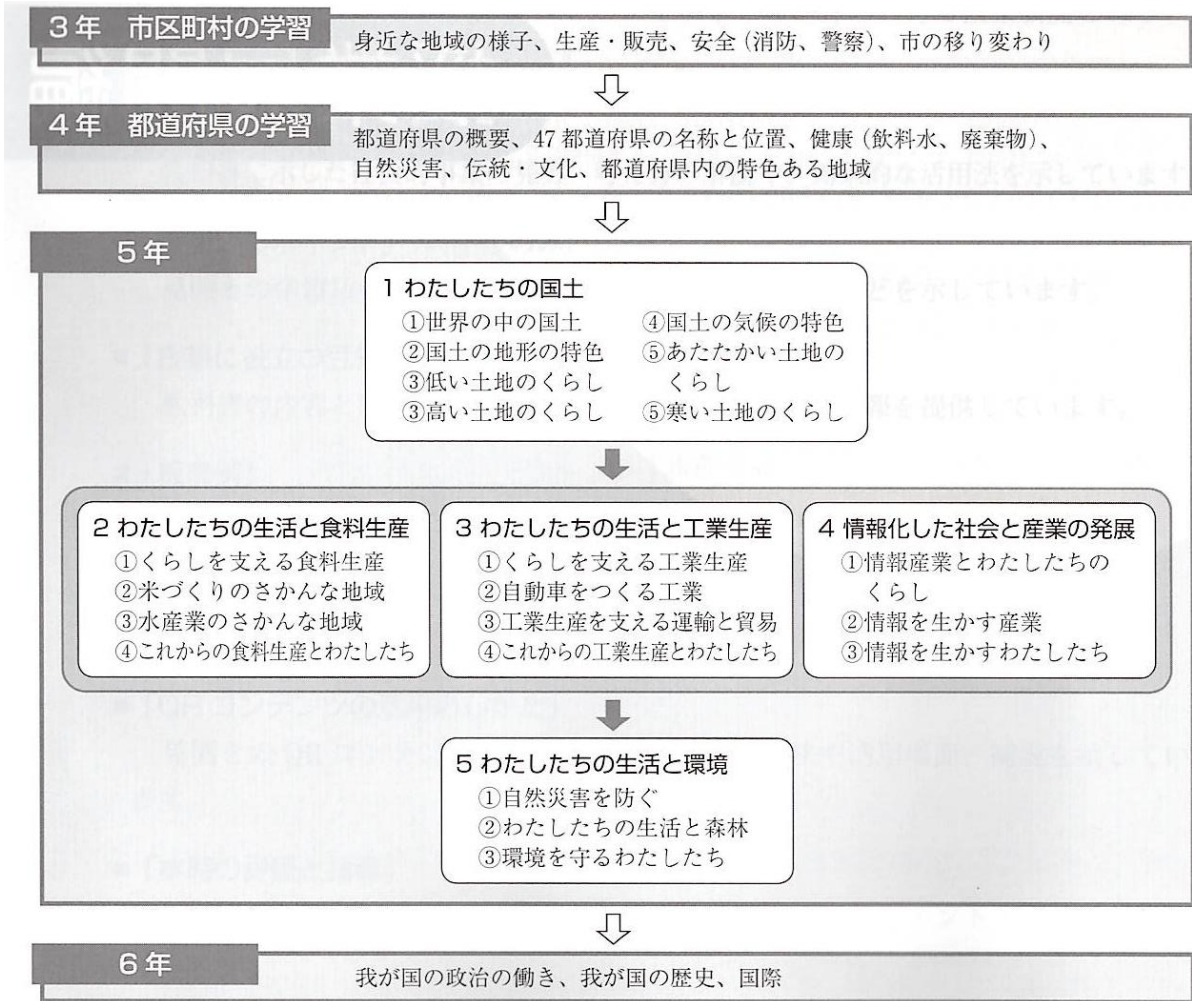
指導にあたっては、まず、伝統を生かした工業、優れた技術を生かした工業への関心を高められるよう、導入を工夫したい。教科書や資料集などの資料、場合によっては報道資料なども活用しながら、課題を解決するためにどのような取り組みが行われているのか調べさせたい。

知識の構造図



「新編 新しい社会 5 年下 教師用指導書研究編」知識の構造図より引用

6 年間指導計画における位置付け



「新編 新しい社会 5年下 教師用指導書研究編」第5学年の学習のフレーム より引用

7 小単元の指導計画と評価計画（全4時間）

過程	時間	本時のめあて	○主な学習活動 ・内容	評価規準と 評価方法
学習問題をつかむ	1	・資料を見て日本の工業生産について話し合い、学習問題を考えよう。	○中小工場や伝統を生かした工業の技術の高さと工夫が分かる資料・映像を観て、感想を交流する。 ・小さな工場には、大工場にはないよさがある。 ・小さな工場には、高い技術をもった人たちが働いている。 ○日本の工業生産の現状が分かる資料を見て、優れた技術をもっているが、今後の工業にもまだ課題があることを読み取り、考えられることを交流する。 ・製造業の人口が減っていて、今後事業が続いていくのか分からない。 ・製造業で働く人が減ったり、海外で生産する会社が増えたりすると、国内生産が衰退してしまう。 ○資料から読み取ったことをもとに、学習問題を立てる。 ・中小工場と伝統を生かした工業について詳しく考えたい。どのような技術？どのような工夫？ ・農業や水産業でも課題があったように、工業生産における課題もあるのではないか。 学習問題例 中小工場は、どのような技術があり、どのような工夫をしているのだろう。また、日本の工業生産にはどのような課題があるのだろう。 ○学習問題に対する予想を考える。 ・中小工場にも日本を支える技術があるのではないか。 ・高い技術を生かして工業生産をしている。 ○学習の振り返りを行う。 ・スプレッドシートに今日の学習で学んだことや、もっと知りたいことについて入力する。 ○自分が調べたい課題をアンケートで回答する。 ・「伝統」「高い技術」「新しい技術」の中から関心がある内容を回答する。（タブレット・フォーム）	思 判 表 ① （ノート・タブレット・発言） 態度① （ノート・タブレット・発言）

調 べ る	2 (本 時)	グループに分かれ、「伝統」「高い技術」「新しい技術」について調べ、分かったことをまとめよう。		
		昔から伝わる技術をどのように工業生産に生かしているのでしょうか。	ものづくりのまち大田区がほこる技術は、どのようなものなのでしょうか。	日本の工業生産では、どのような新しい取り組みが行われているのでしょうか。
		○「めがね協会の小松原さんの話」「伝統を生かした北陸の工業」などから、日本各地の伝統を生かした工業生産を調べる。 ・めがねわくの国内生産の90%以上が福井県で、その中心となる鯖江市では地域ブランドをつくっている。 ・有田焼や高岡銅器、堺打刃物など、専門的な優れた技術を職人が受け継いでいる。	○「富永さんの話」「田中さんの話」などから東京都大田区での工業生産を調べる。 ・富永さんたちは「しぼり」という技術で大きなアンテナなどをつくっている。 ・田中さんたちは近くの工場どうして協力して高い品質の製品をつくっている。	○写真資料などから、日本の工業生産の新しい取り組みについて調べる。 ・人口減少のなか、ロボットが開発されている。 ・環境への配慮や品質の高い製品を海外に輸出している。 ・持続可能な社会に向けた工業生産が求められている。
		○伝統的な技術をどのように生かしているのかまとめる。 ・昔から伝わる技術を守り、生かしながら工業製品をつくっている。また、産地ブランドをつくって、新しい製品を開発している。	○大田区での工業生産について、他地域との違いを考え、考えたことをまとめる。 ・世界でも大田区でしかできない「オンリーワン」の製品をつくっている。 ・少ない人数の中で、お互いの高い技術を生かしながら協力して、よりよい工業製品をつくっている。	○日本の工業生産の取り組みやこれからの工業生産に必要なことを考え、まとめる。 ・働く人の確保や、環境への配慮など、持続可能な社会を目指して、新しい技術や取り組みを発展させていく。
		○今日の学び方の振り返りを行う。(スプレッドシート)	○今日の学び方の振り返りを行う。(スプレッドシート)	○今日の学び方の振り返りを行う。(スプレッドシート)
		知技① (ノート・タブレット・観察)	知技① (ノート・タブレット・観察)	知技① (ノート・タブレット・観察)
	3	○「伝統的な工業」、「優れた技術を生かしたものづくり」、「新しい技術の開発」について、グループで調べ、内容をまとめる。(スライド、模造紙、画用紙などペアで選ぶ) ・①事例の紹介や、すごい!と思ったこと ②工夫していること ③まとめ		

		○今日の学び方の振り返りを行う。(スプレッドシート) 知・技② (ノート・タブレット・発言) 思判表① (ノート・タブレット・発言)		
まとめる	4	・グループの発表を聞き、これからの日本の工業生産についてまとめましょう。	○グループの発表を行う。 ・「伝統」「高い技術」「新しい技術」のペアがそれぞれ集まり、順番に発表する。 ○発表から学んだことや、これまでの学習をふり返って「日本の工業生産は優れた技術をどのように生かし、発展していこうとしているのか」について自分の考えたことをノートにまとめる。 ・日本の工業は高い技術があるので、困っている人を助ける製品づくりが日本の工業の発展につながる。 ・「製品づくりの資源を確保すること」が最も大切。資源を確保しないことには、日本の工業生産は何も行うことができない。 ・「さまざまな人の生活を支える製品づくり」が大切。社会の課題を解決するような製品づくりによって信頼が高まる。 ・持続可能な社会に向けた工業生産が求められている。	思判表② (ノート・タブレット・発言) 態度② (ノート・タブレット・発言)

8 手立て

・学習材

①学習ナビ(掲示用・児童用)

学習の見通しをもてるようにし、自分の学習進度を理解できるようにする。

②アドバイスシート (ワークシート)

学習支援が必要な児童には、教科書の内容が分かりやすくまとめられるワークシートを渡す。必要な情報を読み取り、工業生産について正確に捉えられるようにする。

③動画リスト (Google「サイト」)

NHK for school の動画クリップ等をサイトにまとめた。興味・関心を広げたり、学習内容の理解を深めたりする。

④関連図書

主に伝統工芸に関するもの。授業外でも手に取り興味関心を広げたり、理解を深めたりすることを期待。

⑤ICT ツール (Google「スプレッドシート」)

学習の終末にタブレットのスプレッドシートを活用し、振り返りを行う。自分自身の学び方や、学習内容を記録するだけでなく、友達の内容も可視化できるようにし、自分の振り返りに活かしたり、交流できるようにしたりする。

⑥記録媒体の選択

学習の記録は、ノート、スライド、ドキュメント、ワークシートで選ぶ。

・学習環境

①意図的なペア学習

一人では学習を進められない児童には、ペア児童の学びの様子から、調べる方法やまとめる方法に気付かせたい。一人でも進められる児童には、ペア児童と話したり内容を見比べたりすることで新たな気付きを得る経験をさせたい。それらを次の学びに生かせるようにしたい。

なお、第1時でアンケートを取り、興味関心の高い内容を把握するとともに、今までのセルフ学習や学校生活の様子をもとに教師が意図的なペアを組む。それぞれの課題や伸ばしたい力を考慮して児童を組み合わせる。

②学ぶ場の選択

机椅子の移動や、場合によっては廊下やホールの使用希望があれば、許可する。その際は、活動場所と戻る時間を教師に伝える。一人一人が学習しやすい環境について考えられるようになってほしい。

・導入の工夫

「これからの工業生産」の第1時にこれまでの学習と本単元の内容を関連させるような発問をする。また、学習ナビで全4時間の見通しをもつとともに、視覚的な資料を用意し、児童の興味・関心を高められるようにする。

・振り返り

一斉指導をする1時間目と4時間目は、学習問題やめあてに対して分かったことをまとめて記述することで自分の学びを言語化する。また、共有化し児童同士で閲覧することで、互いに参考にすることができる。個々に進度が異なる2・3時間目は、自分の学び方に対する評価を行い、その理由を記述する。そうすることで、自分の進度を自覚したり、自分の学び方が適当であったかを考えさせたりすることで、次の学習に繋がられるようにする。

時間	スプレッドシート内の内容
1・4時間目（一斉指導）	今日学んだこと（記述）、先生より
2・3時間目	スペシャル到達度（選択）、点数の理由（記述）、今日の学びの振り返り（選択）【ペア学習に関すること：①自分だけでは気付けないことに気付けた②まとめ方が分かった③話すことで内容がよく分かった④大事なところの見付け方が分かった】【学習材について：①教科書をしっかり読み取れた②本から良い情報を見付けた③動画から良い情報を見付けた④インターネットで良い情報を見付けた】【認知的内容：①時間を意識して進められた②集中して学べた】、振り返り＋α、先生より

・第2・3時のテーマの選択

本来ならば一斉指導で「伝統」「高い技術」「新しい技術」について3時間かけて学習するが、一つの内容を選択し学習を深める「知識構成型ジグソー法」で学習を進める。ジグソー法によって、じっくり資料を読み取る力を伸ばすことと、他者意識をもってまとめを書くことで、児童の実態に即して本単元の学習内容の理解を深めていく。

8 本時の指導（全4時間中の第2時）

（1）本時の目標

必要な情報を集め、読み取り、「伝統を生かした工業」「中小工業の優れた技術」「新しい工業生産の取り組み」について理解できる。

（2）本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	□指導上の留意点・支援 ☆評価
導入 5分	○前時の振り返りをする。 T：前回の授業では、日本の工業生産の課題と、日本国内の工業生産の発展について予想を立てました。今日は、ペアになって自分の学習を深めていきましょう。 ○授業の流れと本時の学習の見通しをもつ。 ①学習のめあてとペアの確認 ②進め方の確認 ③学習 ④振り返り（スプレッドシート）	□前時の資料を提示することで、授業内容が想起できるようにする。 □授業の流れと時間配分を説明し、その内容を板書する。視覚的に学習活動の見通しをもたせる。 □ペアを発表し、学習内容をまとめたものを第4時で発表することを伝え、活動の目的意識をもたせる。
	グループに分かれ、「伝統」「高い技術」「新しい技術」について調べ、分かったことをまとめよう。	
展開 30分	○それぞれの学習課題（「伝統を生かした工業」「中小工業の優れた技術」「新しい工業生産の取り組み」）について調べる。 ・教科書、本、タブレットを活用して、自分の学習課題について調べる。 ・ノートかスライドか自分に適した方法を選び、学習内容をまとめる。 ・ペアで学習進度を確認したり、分からないことを相談したりして学習に取り組む。 ・教科書に書いていないことも、本やインターネットを活用して、学習内容を深める。	□調べる媒体は自由だが、まずは教科書から調べることを伝える。 □ワークシートの教材は、調べ学習に苦手傾向がある児童（C児童）にのみ個別に配布する。 □児童の様子を観察しつつ、適宜学び方や学習内容についての助言を行う。 □望ましい児童の姿 C児童：教科書の内容をもとにワークシートを書き、本テーマを解決するために大切なことを理解することができる。机間巡視では必要に応じて、個別に声を掛ける。 B児童：教科書を読み、自分で大事なことを見つけ、抜き出し、ノートにまとめることができる。 A児童：教科書やタブレット、書籍を活用し、多面的にテーマの内容を深める。自分の言葉でノートをまとめることができる。 □学習内容をまとめる方法は、ペアで相談し、自由に選択して良いことを伝える。 ☆知技①（ノート・タブレット・観察） 選んだテーマ（伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術、新しい技術の開発）について各種の資料で調べ、必要な情報を集め、内容を理解することができたか。

終末 10 分	○振り返りをスプレッドシートに入力する。 ・自分が今日の学習でどれだけ内容を深めることができたのかを自己評価するとともに、その評価をした理由を入力する。 ・ペアでの学び方や、学習の取り組み方について、振り返りを行う。 ○次時の見通しをもつ。 T：時間も今のテーマと同じ内容について学習していきます。その次が発表なので、発表を見据えて分かりやすくまとめられるようにしましょう。	□押さえない重要語句を事前に提示し、まとめに活かすよう伝える。 □スプレッドシートの他の人の考えを見て、参考にして良いことを伝え、安心感をもたせる。
--------------------	---	--

（３）本時の評価（選んだ学習課題によって評価が変わります）

全国各地の伝統的な工業を調べることで、昔から伝わる技術を守りながら地域ブランドをつくったり、綿らしい製品を開発したりしていることを理解する。（知・技）

写真や工場で働く人の話から、東京都大田区の中小工場について調べ、中小工場では優れた技術を生かしてものづくりを行っていることを理解する。（知・技）

原材料や資源の多くを輸入している我が国の工業生産の現状をふまえ、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解する。（知・技）